

2024年4月1日現在

東京大学経営協議会学外委員の選考理由

氏 名：國土 典宏（こくど のりひろ）

現 職：国立国際医療研究センター 理事長

略 歴：1981年 3月 東京大学医学部 卒業  
1989年～1991年 米国ミシガン大学外科留学  
1995年 3月 癌研究会附属病院外科  
2001年 4月 東京大学大学院医学系研究科助教授  
2007年 4月 東京大学大学院医学系研究科准教授  
2007年12月 東京大学大学院医学系研究科教授  
2012年 4月～2016年4月 日本外科学会理事長  
2015年 4月～2017年3月 東京大学教育研究評議員  
2017年 4月 国立国際医療研究センター理事長（現職）  
2017年 6月 東京大学名誉教授

経営協議会委員の在任年数：2年

本学との関係（総長、理事等、常勤教職員の経験）：常勤教職員の経験16年

【選考理由】

國土 典宏 氏は、本学医学系研究科教授として、医学の教育及び研究に尽力し、わが国の肝胆膵外科及び臓器移植外科学における指導者として内外に顕著な功績を残した。とりわけ、参加型臨床実習の導入、国際認証を視野に入れたカリキュラム改正、医学部教員の教育への貢献度評価法標準化を図るなど、医学教育に大きく貢献したほか、その教育・指導により多くの優秀な人材を輩出した。研究においても、特に肝臓外科領域での業績は大きく、安全で正確、そして長期予後の確保された肝切除術式を確立し、その普及にも尽力した。

また、本学の教育研究評議会の評議員として大学の運営、特に研究倫理問題に主体的に取り組んだ経験も有するほか、現在は国立国際医療研究センター理事長として法人運営を担うなど、組織経営の経験も豊富である。

以上のように、その経歴から、同氏が経営に関する専門的知見など高い識見を有し、大学法人の経営に広く社会の多様な意見を反映させられるよう意見を述べるとともに、必要な助言を与えられること、本学の理念と目標を共有し、「世界の公共性に奉仕する大学」を目指し、その実現に貢献できること、及び本学と社会のステークホルダーの双方向的な連携を推進し、互いに共通する公共的な利益を追求できるよう尽力する意思を有することが認められる。すなわち、「東京大学経営協議会の学外委員の選考方針等について（令和3年3月18日 役員会決定）」に定める選考方針各号に掲げる事項を全て満たしていると判断できる。